

令和7年度第1回春日井市道風記念館運営協議会議事要旨

1 開催日時 令和7年9月18日（木）午後2時～午後2時50分

2 開催場所 道風記念館 展示室兼会議室

3 出席者 会長 安達健治

委員 川本操代

後藤清勝

野田晴義

武内峰敏

日比野典子

水谷栄太郎

山本祐子

河本金弘

いきがい創生部長 塚本滋

文化スポーツ振興課長 田中芳樹

道風記念館館長 白石大介

上席学芸員 落合哲

主査 鈴川宏美

主事 石井彩由美

傍聴者 なし

4 議題 (1) 令和6年度事業報告について

(2) 令和8年度事業計画について

(3) 令和9年度特別展について

(4) その他

- 5 会議資料 (1) 令和6年度事業報告について
(2) 令和8年度事業計画について
(3) 令和9年度特別展について

6 会議内容

- (1) 部長あいさつ
(2) 新任委員の紹介・委嘱状交付
(3) 会長あいさつ
(4) 議事

7 議事内容

- (1) 令和6年度事業報告について

令和6年度事業報告について説明した。次のような質疑応答・意見があった。

- 後藤委員 ・道風の書臨書作品の予備審査に参加した審査員を教えていただきたい。
- 事務局 ・昨年度の予備審査は、安達柏亭先生、藤田金治先生、橋詰桃邨先生の3名で行った。
- 後藤委員 ・事務的に、その3名で進めていくのか。若手や後進の育成も含めて、予備審査員の人数を増やす必要があるのではないか。
- 安達会長 ・自分も予備審査に参加しているが、これからのことを考えると、後進の育成に取り組まなければならないと感じている。事務局側でも考えていただきたい。
- 野田委員 ・様々な展覧会や行事を工夫して開催していることがわかる。年々鑑賞者数は増えてきており、コロナ前の水準に回復しているのではないかと感じる。その中で、子ども向けワークショップの参加者の人数はどのように推移しているかお伺いしたい。

- 事務局
- ・来館者数は、おおむね横ばいであるため、来館者をより増やしていけたらと考えている。展示品解説を開催したり、特別展の際には講演会にしたり、展覧会に合わせた講座を開催したりと、日々集客に努めている。
 - 子ども向けワークショップは、初めて企画展「おののとうふう」を開催した当時から実施しており、10年以上が経過している。定員に対しての応募者数は多く、回数を増やすなどしてできるだけ希望者が参加できるように工夫している。ここ1～2年は希望者数が減少傾向であるものの、人数を絞ったほうがワークショップの内容が子どもたちに伝わっている手ごたえがあるので、このまま長く続けていけたらと思う。

(2) 令和8年度事業計画について

令和8年度事業計画について説明した。次のような質疑応答・意見があった。

- 水谷委員
- ・昨年度の第2回運営協議会で示されたアンケート調査の結果について、一方的に聞くだけではなく、直接話し合いをして情報をキャッチするような、館として聞きたい人を集めてインタビュー形式で意見を聞くなどするとよいのではないか。
- 事務局
- ・来館者からは、展示解説、講座等の際に直接要望を聞くようにはしているが、こちらが意見を聞きたい人を集めての聞き取り調査は行なったことがない。今後の参考にさせていただきたい。
- 水谷委員
- ・子どもたちを対象にしたワークショップや展覧会を開催しているのであれば、学校の先生を集めて聞き取り調査を行うのも良いかもしない。
- 山本委員
- ・道風記念館は間もなく45周年になる。それを記念しての

特別展「寛永の三筆」展は、開催する側としては緊張する内容であり、敷居が高くなる展覧会になるのではないか。最近寛永の三筆をテーマにした展覧会はあまり聞かないため、頑張ってほしい。

水谷委員 • 最近の自然災害に対して、どのように準備・対策をしているのか。川がすぐ近くにあり、川に関する被害は想定される。現時点での態勢はどのようにになっているか。

事務局 • 春日井市では地域防災計画を策定しており、その中で行動等を定めている。ハザードマップによると道風記念館は浸水想定域に入っている。警報等が発令された場合は、時間内・時間外を問わず定められた職員が館に参集することになっている。浸水被害が発生しそうな際は、河川の増水等の状況を見て1階にある作品を2階へ垂直避難させることになっている。

安達会長 • 最近は気象状況が安定しておらず、近年でも四日市市での駐車場の浸水被害や、川崎市市民ミュージアムの地下収蔵庫が浸水し、美術品が被害に遭った事例もある。対策をしていてもそういったことは起こりうる。道風記念館の貴重な文化財を守るためにも、配慮願いたい。

(3) 令和9年度特別展について

令和9年度特別展について説明した。次のような質疑応答・意見があった。

山本委員 • 武者小路実篤は南瓜の書画が一時期大流行し、親しみのある作風であるため展覧会としては面白いと思うが、なぜ今実篤の書の展覧会をしようと考えたのか。

事務局 • 開催時期についての具体的な理由はあまりない。今年と来年は生誕年と没年となり区切りの良い年となるが、道風記念館開館45周年も重なってしまうため、ずらした方がいいと考え

えた。

野田委員

- ・安達会長のあいさつで話題に上がった、袋井市の書道文化振興の事例に関連して、6月頃、春日井市民フォーラムで「小野道風の歌」を歌うコンサートがあった。道風記念館では難しいかもしれないが、小野道風の宣伝をするのによいのではないか。また、道風くんのマスコットは、春日井まつりでのグッズの販売なども、春日井市の発信の一つとしてよいのではないか。
- ・書道人口を、低年齢の段階から育てていく必要がある。春日井市では小学校1年生から毛筆に触れる取り組みをしている。これらが続けていくようにお願いしたい。そのためには、教育委員会との連携も大切だと考える。

日比野委員

- ・自身の書道塾でも、子どもたちが道風くんの墨汁を喜んで使っている。春日井市での取り組みである年賀状企画を課題にした際も、上手に道風くんを書いていた。道風くんは思っているよりも浸透しているのではないか。

(4) その他

事務局

- ・4月20日に開催された勝川駅発着のJR東海さわやかウォーキングでは、501名もの来館者があった。

事務局

- ・今回の審議の内容をふまえて今後の予算を考えていきたい。次回の運営協議会は3月に予定している。委員の方々には、今後も様々なご意見をいただきたいので、ご協力をお願いしたい。

以上のとおり春日井市道風記念館運営協議会の議事の経過及びその結果を明確にするために、この議事要旨を作成し会長及び出席委員1名が署名する。

令和 7 年 10 月 21 日

会長 安達健治

委員 野田晴義